

つながる

Tsu-na-ga-ru



SPECIAL REPORT

中日新聞「リンクト」
LINKED
plus+
病院を
知ろう

高度な手術を、 より安全に正確に。

呼吸器科特集

CONTENTS

- 1 治療を学ぼう
- 2 チーム医療を知ろう
- 3 HOSPITAL NEWS

院長メッセージ

当院では、手術支援ロボットを導入し、前立腺がん、胃がん、大腸がん、膀胱がんなどに対し、手術実績を重ねています。今回は、肺がんに対するロボット支援下手術にフォーカスし、呼吸器外科、呼吸器内科などが連携し、高度な治療を安全に提供している取り組みをご紹介します。ぜひお読みください。

SPECIAL REPORT

高度な手術を、 より安全に正確に。

呼吸器科特集

呼吸器内科、呼吸器外科などが連携し
肺がん患者により良い治療を提供する。

CHAPTER 01 手術支援ロボットによる 気管支形成術を施行。

この日、岡崎市民病院の呼吸器内科と呼吸器外科、放射線科の医師が集まり、合同カンファレンスが行われていた。主に治療法の選択が難しい肺がん症例などについて、どのような治療法がベストかを検討するのが目的だ。

そのなかで、呼吸器内科統括部長の奥野元保は、病巣の画像を見せながら、60代の患者について相談した。「先日、肺炎で入院された患者さんですが、気管支鏡検査で気管支カルチノイドが見つかりました。生活の質を考慮しつつ、手術を適応できるでしょうか」。気管支カルチノイドは気管支粘膜に生じる、希少な神経内分泌腫瘍で、肺がんに準じて診断、治療が行われる。治療法は外科的手術が一般的だ。

画像を凝視した呼吸器外科統括部長の岡川武日児は、「気管支の一部分を切除して、気管支を繋ぎ合わせる気管支形成が必要ですね。かなり難易度の高い手術になりますが、手術支援ロボットを使えば、安全にできると思います」と答えた。岡川がこのように選択したのは、気管支の縫合に精緻な手技が求められるからだ。そもそも肺の手術には大きく分けて、胸を切り開く「開胸手術」と、胸部を数力所切開し、小型カメラや手術器具を挿入して行う「胸腔鏡下手術」がある。従来、同院では、気管支形成のように高難易度の

手術は安全性を優先し、胸腔鏡ではなく開胸手術を行ってきた。しかし、手術支援ロボットであれば、胸腔鏡下手術と同じく、小さな切開部から器具を入れて行う術式であっても、双眼鏡で鮮明な3D画像を見ながら、人の手のように器用に動く多関節の鉗子を使って手術できる。「開胸手術に近い感覚で、正確に縫合できます。同時に、胸腔鏡下手術と同じように傷が小さく、体への負担も抑えられます」と岡川は2つの利点を説明する。

この岡川の判断を皆で共有し、後日、患者の同意を得て、ロボット支援による気管支形成術が行われた。手術時間はおよそ4.5時間。その後の回復過程も順調で、約1週間後退院することができた。現在、この患者は咳や息苦しさから解放され、CT検査で転移がないことも確認され、安心して暮らしているという。

COLUMN

● 抗がん剤、放射線、手術を組み合わせて治療するがんは、一つの診療科で完結する病気ではない。複数の診療科が協力し、総合的な治療を提供していくことが求められる。

● そのため、岡崎市民病院では診療科の垣根を超えた緊密な関係を構築しているほか、患者を支えるためのがんサポートチームを結成。専門知識を持つ看護師や医療ソーシャルワーカーなどが、治療法やがんに伴う苦痛で悩む患者に寄り添い、がん治療を側面から支援している。



内科、外科、放射線科の 医師が密に情報を共有する。

岡崎市民病院では、2020年4月に手術支援ロボットを導入。呼吸器外科では、岡川をはじめ2名の呼吸器外科医がロボット支援下手術サージションコンソール(術者)として必要な講習会への参加やトレーニングを積み、2021年だけで、肺がんに対する切除術(肺葉切除・肺区域切除)を36例、安全に行ってきた。ここまで岡川はどんな手応えを感じているのだろうか。「手術支援ロボットは特殊なものと思われがちですが、そうではなく、外科医の技術を標準化均一化できるものです。たとえば、肺がんがリンパ節に転移している場合も、細部のがんまで完全に切除できる。もちろん解剖学的知識や技術の習熟が必要ですが、訓練を積めば、術者を限定せず高いレベルで手術できるのが、最大の良さだと思います(岡川)。その一方で、開胸手術を否定しているわけではない。「症例によっては、

躊躇なく開胸手術を選択します。大事なものは、患者さんにとってベストな治療を提供することですから」と言う。

同院の医師らが合同カンファレンスを重視するのも、より多くの眼で治療法を検討するためだ。同院では手術前だけでなく手術後も皆が集まり、術後の治療について検討するなど、診療科を超えたチーム医療を推進している。そのやり方に、奥野も深く同意する。「がんの治療は抗がん剤、放射線、手術を組み合わせて行うのが基本です。だからこそ、各診療科が個別に治療を考えるだけでなく、画像診断のチェックの段階から内科、外科、放射線科の医師が参加し、オープンな場で議論し、情報共有することがとても大切だと考えています」。また同院では、呼吸器内科と呼吸器外科の病棟が共通で、両科の交流も活発だ。「何かあれば、すぐ相談して速やかに対応しています。これからも、患者さんにとって一番良い治療は何かを考え、皆の力を結集していきます」。奥野は力強い口調でそう締めくくった。

BACKSTAGE

ロボット支援下手術が治療の標準化を促す。

●手術支援ロボットは2012年に前立腺がん、2016年に腎臓がん手術が保険適用となった。つづいて2018年に12の術式(肺がんなど各種がんや心臓弁膜症の手術)に保険適用が拡大し、手術が普及してきた。

●その利点は、何といても精緻な手技が可能になること。今後さらに保険適用の枠が拡大すれば、ロボット支援下手術への移行が進み、治療の標準化が一段と広がるのではないだろうか。



治療を学ぼう

今回のテーマ

肺がんのロボット支援下手術

肺がんのロボット支援下手術とは？

正確性、安全性、安心感。

開胸手術と胸腔鏡下手術のメリットを併せ持つ手術法です。

■ 医師がロボットを遠隔操作。
狭い空間でも精密な作業を
正確に行うことができます。

当院では、2020年4月に、手術支援ロボットを導入し、私たち呼吸器外科でも、胸腔鏡下手術（胸部の数カ所に穴を開け、手術器具を挿入して行う手術）とともに、ロボット支援下手術を行っています。

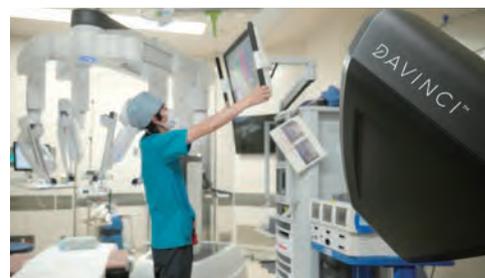
ロボット支援下手術とは、医師がロボットを遠隔操作して行う内視鏡下手術です。4本のロボットアームの1本には、鮮明かつ立体的なハイビジョン3Dカメラがついており、術部を約10倍まで拡大可能。アームの関節は、360度回転し人の手以上の可動域があり、緻密な作業も正確にできます。人間の目で見るとよりも拡大された視野を立体的な3D画像で確認でき、狭い空間でも精密な作業を正確に行うことができます。



■ 治療の重要な部分にも、
難易度の高い術式にも、
有効性を大きく発揮。

呼吸器外科では、2021年3月より肺がんに対するロボット支援下手術をスタート。手術のなかでも、深い部分までアプローチが必要なリンパ節郭清、あるいは術式自体が複雑で難易度の高い気管支形成術が必要なケースには、特に有効性を発揮しています。

ロボット支援下手術では、従来の手術と比較すると、より小さい創口で、出血量も少なく、術者の手ぶれも防止されるなど多くのメリットがあります。患者さんの体に負担が少なく、安全性、正確性の面からも優れた手術法で、術後も順調な経過を得ることが期待できます。開胸手術と胸腔鏡下手術双方のメリットを併せ持つのも大きな特徴です。



Doctor's message



呼吸器外科統括部長
岡川武日児

患者さんのメリットを考え、
一人ひとりに適した治療を提案します。

ロボット支援下手術が加わり、肺がんの手術方法の選択肢が増えました。当科では、患者さんの病状やご希望を考慮して手術法を決定しますが、ロボット支援下手術が望ましいと判断した患者さんへは、治療の安全性や有効性を正確にお伝えできるよう、画像などを用いて丁寧に説明しています。この手術法は、体に負担が少なく早期の社会復帰が見

込めること、そして何より複雑な手術をより安全にできるといった点から、患者さんにとってメリットの大きい手術法だと言えます。今後も、皆さんにとってより満足度の高い治療を提供できるよう精進してまいります。



岡崎 の Team

チーム医療を知ろう

今回のテーマ

理念策定プロジェクトチーム

持続的な幸せ
「地域とともに“ウェルビーイング”を創造する」
新たに策定した、当院の理念です。

■ 社会や価値観の変動を見つめ、
当院の存在意義を、
職員自身が改めて問い直す。

今日、社会のあり方や価値観が大きく変動し、病院や企業といったさまざまな事業体では、自らの存在意義を問い直す動きが高まってきました。たとえば、自分たちは何のために存在するのか、どういった価値観を大切にするのか、そして、どこに向かって進んでいくのかなど、その事業体の原点や根拠ともなる考えです。こうした時代の動きを見つめて、当院では、2022年4月、小林 靖 新院長の就任を機に、多職種による理念策定プロジェクトチームを結成。新たに「パーパス(存在意義)」「バリュー(共有する価値観)」「ビジョン(中長期的にめざす姿)」を策定しました。

■ 多職種でチームを結成。
議論、検討を重ね、軸となる
パーパス(存在意義)を策定。

当院の原点・根拠の「軸」となるパーパスの策定にあたっては、組織の現状を把握した上で、ありたい姿を議論。院長の協力を得てバリューとビジョンを紐づかせ、最終的な形を固めていきました。さらに、内外への広い周知と浸透を目的に、ロゴマーク策定チームの協力を得て、当院の新たなロゴマークが誕生しました。

当院のパーパス、バリュー、ビジョンは、本誌の裏表紙にて、ご紹介しています。本来、行動規範とは、職員一人ひとりが、どのように行動すべきかの原理原則を示す言葉ですが、当院ではもっと広義にとらえ、当院自体の規範として明言しました。



Doctor's message



理念策定プロジェクト
チームリーダー
皮膚科統括部長
西田絵美

患者さん・地域の皆さん・職員とで
共有したい、「ウェルビーイング」。

チームの誰もが、パーパスとは初めて聞く言葉で、その概念を正しく理解することから活動は始まりました。グループウェアも活用しながら議論を重ね、約2カ月で新たなパーパスを策定することができました。

策定の際、大切にしたのは、私たち医療者からの目線だけではなく、患者さんや地域のことを主体にしたパーパスであるということ

です。当院は高度急性期・救急医療として知られていますが、今では、治すだけではなく、療養生活を支えてほしい、病気をもちながらの生活を支えてほしいなど、地域からのニーズも拡大してきました。こうした多様化した思いを見つめ、選んだのが「ウェルビーイング」。患者さん・地域の皆さん・職員が、次代を見つめて共有したい言葉です。



岡崎市民病院のパーパス(理念)を新たに決めました。

Code of Conduct / 行動規範

Purpose (存在意義)

『地域とともに“ウェルビーイング(持続的な幸せ)”を創造する』

変化が速く、将来の予測が困難なこれからの時代においても、私たちは良質な医療サービスの提供を通して地域のすべてのステークホルダーとともに人々の“ウェルビーイング(持続的な幸せ)”への希望を叶えていきます。

Values (共有する価値観)

地域とつながる

ハーモニー(和)と
リスペクト(敬)

個人とチームの
成長

地域の中核医療機関としてさらなる成長を遂げ、社会へ貢献し続けるために、私たちは以上のことを大切に、実践していきます。

Vision (中長期的にめざす姿)

地域から信頼され選ばれるエクセレント・ホスピタル(最高の病院)



大切にしたいのは
“ウェルビーイング”
皆さんもぜひ覚えてください!

詳しくは
ホームページを
ご覧ください



新しいロゴマークに込めた願い



「無限」マークが重なり合い、岡崎市の「桜」の5弁や、どんな人でも受け止める両手を広げた人が見えてくるロゴマーク。真ん中にはハートがあり、医療の中心に人の心があるとする地域医療のアイデンティティと温かみを感じるデザインに。「無限」は続いていく命を象徴し、岡崎市の「花火」や太陽のように、当院が人々を照らす光になるように願いを込めました。

SDGs!! おかざき魅力発信展に参加。

2022年9月9日から11日の3日間、岡崎市とイオンモール岡崎が主催する「SDGs!! おかざき魅力発信展」に当院のスタッフが参加しました。病気の予防や治療に関するポスター展示のほか、AEDの使い方、認知症予防運動「コグニサイズ」や腹腔鏡手術・縫合(結紮)の模擬体験を行い、多くの方にご参加いただきました。



20分で聞けちゃう! 旬の健康情報

エフエムEGAO「イブニングワイド」で
当院の医療スタッフが健康情報を発信!

「いまどき旬」コーナー 18:00~

令和4年
10月27日(木) この症状、もしかして
オーラルフレイルかも!?
診療技術室 歯科衛生士 向井紗耶香

11月24日(木) 新型コロナウイルスの予防と治療のくすり
~インフルエンザウイルスと比べながら~
薬局次長 長坂篤志

12月15日(木) 小児のコロナ
感染症小児科 統括部長 安藤将太郎



エフエム
EGAO
(76.3MHz)



これまでの
放送内容は
こちらから!

病院広報誌 特設サイト

つながる
Tsu-na-ga-ru



こちら
から



LINE(公式)
アカウント

こちらから



岡崎市民病院
OKAZAKI CITY HOSPITAL

〒444-8553 岡崎市高隆寺町字五所合3番地1
TEL 0564-21-8111 <https://www.okazakihospital.jp/>

つながる
Tsu-na-ga-ru

2022 No.11 10月号

発行責任者/院長 小林 靖 発行/岡崎市民病院 広報戦略チーム
記事提供/中日新聞広告局 編集協力/プロジェクトリンク事務局 発行/2022年10月